

令和4年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①再編成した教育課程に基づき、より良い授業づくり、実践を行う</p> <p>②児童・生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指す小学部・中学部・高等部の学習内容の精選を行う</p>	<p>①カリキュラムマネジメントを推進し、身につけさせたい力を明確にした指導計画を立て、ねらいを明確にした授業を実践・改善する</p> <p>②自立と社会参加のために必要な資質と能力の育成を目指し、小・中・高での学びの連続性を意識した学習内容の精選を図る</p>	<p>①「平養カリキュラムマネジメント要綱」を活用し、マネジメントスケジュールを周知・確認し、PDCAサイクルでの実質的な運用を行う</p> <p>②系統性や連続性を図るため、カリキュラムマネジメントに組み込んだ「授業の主な目標表」の継続的な活用や見直しを図る</p>	<p>①カリキュラムマネジメントが推進され、計画・実践・評価・改善のサイクルにより、児童・生徒に身につけさせたい力を育む指導が実践されたか</p> <p>②カリキュラムマネジメントが推進され、学びの連続性を意識した学習内容の精選が図られたか</p>	<p>①カリ・マネ要綱に基づき指導計画・指導案作成の要素に育成すべき資質・能力の3つの柱の観点を取り入れた授業づくりが行われた</p> <p>②小中高の学部間で授業計画や目標設定が段階的に成長を感じられ、学びが途切れず連続的になるよう点検・変更した</p>	<p>①カリ・マネ要綱の周知と活用を図り、年間指導計画の書式について記入方法や書式構成の見直しを行う</p> <p>②行事の目標や活動のステップアップなど部門内の連携をさらに進め、見通しが持てるよう整理していく</p>	<p>保護者アンケート集計結果より 令和5年1月実施</p> <p>「個別教育計画が授業や指導内容、進路指導の改善に活用されている」</p> <p>よくあてはまる 64%</p> <p>ややあてはまる 33%</p> <p>合計 97%</p>	<p>カリキュラムマネジメントが推進され、身につけさせたい力を整理・共有することにより、身につけさせたい力を明確にした指導計画を立て、ねらいを明確にした授業が実践できつつある</p> <p>小中高での学びの連続性を意識した学習内容をさらに整理していく必要がある</p>	<p>カリ・マネ要綱が活用しやすいように補訂を行い、活用ポイントを年度当初に職員向けに周知するとともに、見直しを行い改善を図る</p> <p>各学部長が集まるカリキュラム班で、アフターコロナでの教育活動・行事などの見直しを連続性・系統性を踏まえて再構築していく</p>
2 児童・生徒指導・支援	<p>①アセスメントに基づくエビデンスのある指導・支援を実践する</p> <p>②保護者、専門職等との連携を図り、チーム力を活用した指導・支援を実践する また、医療的ケアの安全な実施を推進する</p>	<p>①アセスメントのスケジュール化を行い、持続的に適切なアセスメントが実施できる仕組みづくりを行い実践する</p> <p>②指導・支援計画の策定、実施、評価に担任・担当・保護者・専門職等が参画し、児童・生徒の個々の実態とニーズに対応した指導・支援にチームで取り組む</p>	<p>①適切なアセスメント実施のために「アセスメント選びお助けツール」等を活用し、関連する分掌等と連携してスケジュール化し、持続可能な取組を行う</p> <p>②必要に応じて外部資源も活用する 医ケアについては、保護者説明会や教員研修等を引き続き開催し、丁寧な共通理解や情報共有を継続する</p>	<p>①持続的なスケジュールによるアセスメントに基づいた実践に対し、振り返りや評価を行うことでエビデンスのある指導・支援が実践できたか</p> <p>②児童・生徒の指導・支援にあたり、チームとして情報の共有が図られ、それぞれの立場での役割を果たすことができたか</p>	<p>①アセスメントをスケジュール化することで実施率が全校で8割を超えた アセスメントやエビデンスに関する研修を重ね、共通理解と意識が深まった</p> <p>②医療的ケアに係るヒヤリハット・アクシデントを受けて、チームとしてケアマニュアルの総点検を行い、事故を未然に防止できるよう見直しを図った</p>	<p>①学年進行により次年度は100%近いアセスメント実施の見込み アセスメントを活用した指導計画と実践を定着させ、エビデンスのある指導を展開する</p> <p>②マニュアルの再確認と改訂作業を重ねながら、ケアに関わるスタッフの安全意識と協力を深化させ、事故が起きない環境を整えていく</p>	<p>PDCAサイクルの前にはアセスメントが必要であり、アセスメントを基に指導計画を立て、その計画を実行した結果、どのように児童生徒が変化したのかを評価し、計画を改善していくという取組である これを完璧に実行することは大変困難だが、今後一つずつステップを進めていってほしい</p>	<p>アセスメントに関する研修により、その意義と重要性は理解されてきているので、次年度は計画的に実施していく 専門職による摂食機能のアセスメントにより給食の食形態や食具についての見立てと見直しを全校的に実施できた 医ケア事故防止に向けてマニュアルの全面的改定を行うことができたので、次年度検証を行っていく</p>	<p>アセスメントを活用して指導計画を立て、その計画を実行した結果の児童生徒の変容を評価し、計画の改善に生かす</p> <p>食形態や食具の新表記使用と検証を行い改善を図る マニュアルは基準と手順を示すものなので、なぜそうするのかという理解を深めてケア対応を行い、事故防止を徹底していく</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価(3月23日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	①関係機関と連携し、自立と社会参加をめざす進路指導・支援の充実を図る	①進路専任と学年進路担当の役割分担を整理しつつ、担任が主体的に関わる進路指導によりオーダーメイドの進路指導の充実を図る 地域の諸機関や事業所とも連携を深め、地域に根差した進路指導を推進する	①担任も進路担当と連携しつつ地域との理解や連携をより深め、進路指導にあたる コロナ禍でも状況に応じてリモート等効果的な方法を活用し、地域との連携をより深め相互理解を図ることにより進路指導を推進する	①担任が進路担当と連携し主体的に関わることで、一人ひとりの実態に寄り添った進路指導を行うことができたか 地域の諸機関や事業所等とも相互理解を深め、進路指導に活かすことができたか	①生徒の実態や本人・保護者の進路意向を考慮して実習・進路先の職種を拡大し、マッチング状況を高められた アフターフォローの充実により離職者数の減少を図ることができた	①進路先の選定や実習体験が幅広い選択肢の中からできるように進路・実習先の開拓を行っていく 卒業生だけでなく企業側にも必要な場合は丁寧に働きかけていく	生徒の良いところをよく見ている担任が主体的に進路指導に関わり、進路専任が専門的なバックアップをすることでマッチング状況が高められたと評価できる	関係機関との良好な連携により、実習先・進路先のマッチングが図られた 就職のためのスキルだけではなく、自立と社会参加のためのスキルアップを小中学部の早い段階から図っていく	小学部・中学部それぞれの保護者向け、また職員向けの進路研修会、説明会、見学会などを実施し、担任が本人・保護者と向き合いながら、連続性・系統性のある進路指導・支援の充実を図っていく
4	地域等との協働	①共生社会の実現に向け、地域や関係機関等との連携により児童・生徒の社会貢献を促し、自己有用感を育成する ②センター的機能のめざすべき新たな方向性の検討と諸機関の連携による実践を推進する また、効果的なコミュニティ・スクールの実践的検証を行う。	①「地域を第2の教室に」構想の質を見直し、勤労観、就労観の醸成を図る地域に開かれた教育課程実現に向けて、取組を継続、深化させる ②インクルーシブな学校づくりに向けて、担い手の育成とニーズに応じた教育の推進に組織的に取り組む コミュニティ・スクールの新たな構想を推進するため組織づくりと活用を行う	①育てたい力を踏まえ学習活動の目標や授業との関連性等について考察や整理を行い、イベント化、単発化しない活動内容の計画、精査を行う ②地域の小学校との人事交流を活かした実践を積み重ね、インクルーシブな学校づくりに向けて広く共通理解を図り協働意識を醸成できたか 地域共同支援本部の活用が図られ、コミスクが効果的に機能したか	①教育課程に位置付けられた地域での学習活動により、児童・生徒の活動に広がりを持たせ、勤労観、就労観の醸成を導き出せたか ②強化型センター的機能の機動により、インクルーシブな学校づくりに向けて広く共通理解を図り協働意識を醸成できたか 地域共同支援本部の活用が図られ、コミスクが効果的に機能したか	①地域活動の広がりや単発的イベントに終わらない学習活動の持続的取組により、児童・生徒の自己有用感を育成することができている ②地域の小学校との人的交流を要としたインクルーシブな学校づくりが一步一步進んでいる コミスクの機動による共生社会推進協働本部とのコラボが進展してきている	①地域活動の質を高めていくために児童・生徒に身につけさせたい力を明確にしながら持続可能な活動に取り組んでいく ②次年度も人的交流の継続を軸に、インクルーシブなパートナーシップの深化と拡大を促進する 協働本部との連携による地域学校協働活動に本格的に取り組んでいく	地域を少しずつ巻き込みながら、理解を推進していくために協働本部をどう活用するかが重要である 新たに生み出された取組も偶発的で終わらないように、協働的な活動を実績として積み上げていけると良い 地域の文化に根差した持続可能な活動に取り組めると良い	コロナ禍の制約下ではあったが、工夫しながら地域貢献活動を積み重ねたり、新たな取組を実施したことができた 児童生徒の自己有用感・勤労観を育む持続的取組が必要 インクルーシブな学校づくりに向けての人的交流の成果により、地域の小学校とのパートナーシップが深化したが、持続していくことが課題	共生社会の実現に向けて、地域の小学校との人的交流を要として、持続的・発展的な「インクルーシブな学校づくり」を促進していく 共生社会推進協働本部の立ち上げと稼働により、市内特別支援4校と地域との連携が進展している 協働本部を持続可能なハブ機関として、連携を取りながら、地域とのつながりを深化していく
5	学校管理 学校運営	①教員の人格的資質および専門性の向上を図る ②安全で安心できる校内体制の整備を推進する また、実践的な防災のあり方検討と訓練等を実施する	①教員の個の資質に大きく依存しない持続可能な組織づくりと人材育成を推進する ②安心・安全な教育環境を提供するため、特に防災訓練においては災害対応能力を向上させる取組を行う	①校内組織におけるリーダーとサブの役割を明確化し人材育成を意識した組織運営を行う ②発災時を想定した定期的な防災訓練を積み重ね、校内防災宿泊訓練などによりイレギュラーな場面への耐性を高める	①効果的な研修をはじめ組織運営における人材育成が図られたか ②あらゆる事態を想定した災害時の対応が準備できているか	①教員の76%が自身の指導力が向上したと回答するなど授業改善や研修の積み重ねの成果が見られた ②校内防災宿泊や非常食の喫食、防災隊の活動などを通して日常的に防災に対する意識と対応能力の向上が図られた	①次年度も全教員が授業公開・授業改善に取り組み、授業力・専門性の向上に努める ②想定外といわれない防災体制を整え、感染症拡大防止のニューフェイズにも適時的確に対応する	保護者アンケート「教員は専門性の向上に努力し、より良い指導を実践している」 よくあてはまる 59% ややあてはまる 39% 合計 98%	年次研修とエントリ一授業により、多くの教員が研究授業や授業公開を行い、授業改善に取り組むことができた 定期的な防災訓練や日常的な防災学習を積み重ね、あらゆる事態を想定した災害対応を準備する	コロナ後を見据え、学校公開や授業参観にも積極的に取り組み、開かれた学校を再構築しながら授業力・専門性の向上を図る 避難所開設訓練を生徒参加で行うなど、より実践的な防災訓練に取り組む